

本部広報2021-014
2021年9月9日

どうしてビーチサンダルで車を運転してはいけないの?? とっさの時に反応できない! 履物が運転に及ぼす影響を検証

JAF（一般社団法人日本自動車連盟 会長 藤井 一裕）は9月9日（木）、サンダルや革靴・スニーカーなどの履物による運転操作の変化を検証し、その結果をウェブサイトに公開しました。

ビーチサンダルやミュールなど、“車の運転に適さない”といわれる履物がいくつかあります。今回の実験では、さまざまな履物を着用したモニタードライバーにテストコースを走行してもらい、運転操作にどのような影響があるのかを検証。なぜその履物が車の運転に適さないのかを明らかにしました。

■テスト：履物の違いでペダルの操作性が大きく変わるか？

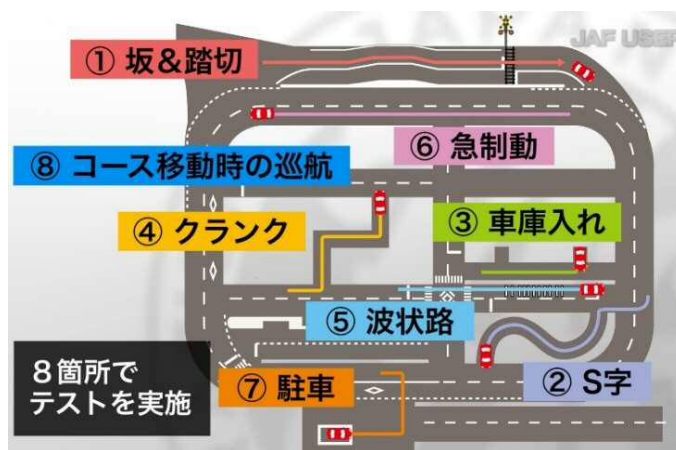
▽モニターと履物の種類

- 20代男性：つま先が尖った革靴、ビーチサンダル、スニーカー
- 40代男性：革靴、木製サンダル、スニーカー
- 30代女性：ミュール、厚底ブーツ、スニーカー
- 40代女性：サンダル、ハイヒール、スニーカー



ビーチサンダルでのテストの様子

テストコースには細かい運転操作が想定される交通場面を設置しました。4人のモニターにはひとつの履物に対してコースを1周走行してもらい、それぞれの履物について、アクセルの踏み方やブレーキを踏む力、足の動きを計測器やカメラで確認し、運転操作への影響を検証しました。



8つの交通場面で検証

結果：運転に適さないと言われている履物では、咄嗟の危険回避に対応できない可能性あり。

サンダルでは、ペダル踏みかえの際に脱げやすくなったり引っかけたりする場面が見られました。また、厚底ブーツやハイヒールでは微調整のしづらさから、想定外に急加速・急発進した様子もありました。つまり、咄嗟に操作しなければいけない時に対応できない可能性があることが分かりました。



木製サンダルが脱げそうになっている



クランクにもかかわらず、厚底の靴で急加速

一方、スニーカーではペダルを滑らかに操作でき、急ブレーキの際でも強い力で踏み込むことができました。



スニーカーではブレーキペダルをしっかり踏み込んでいる

シーズンやファッション、シチュエーションに合わせて選ばれる履物。近所に行くだけだから…、履き替えるのが面倒だから…と、つついっと思ってしまいがちですが、適切な履物での運転は自身の安全運転のためだけでなく周りの歩行者などへの安全にもつながります。運転に慣れてきた時にこそ、見直してほしい大切なポイントです。

また、JAF ユーザーテスト以外にも「JAF 先生に教わった！」シリーズとして、YouTuber の木村亜美さんにも同じ内容のテストを体験してもらいました。ドライバー目線での感想やポイントをより詳しく解説していますので、あわせてご覧ください。

JAF はこれからもドライバーの目線に沿った実験をし、交通安全の啓発に努めてまいります。

■テスト結果：JAF ユーザーテスト

〔資料編〕 https://jaf.or.jp/common/safety-drive/car-learning/user-test/footwear/driving_shoes

〔動画編〕 <https://youtu.be/YyMf6knb4Xk>

■【コラボ動画】JAF×木村亜美 「履物の違い」JAF 先生に教わった！

<https://youtu.be/RtDkF0mo2RQ>

一般社団法人 日本自動車連盟 広報部

Tel : 03(3578)4920 Fax : 03(3578)4912 Mail : koho@jaf.or.jp URL : https://jaf.or.jp/
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館